

さくらタイムス令和7年1月号

新しい年の幕開けとして、お題は「Simple」です。元旦に大谷選手の特集があり、ご本人と関係者の証言から昨年までの驚異的な記録を作り上げてきたのは「シンプル思考」だと結論付けていました。

大舞台になれば緊張と期待のプレッシャーが妨げになるところを、常に他の「誰とも違う領域」と同僚に言わしめるほど細部にこだわった準備をし、試合ではシンプルにそれまで続けてきたことをしっかりと集中してすることに努め、1点を追う打席でもHRではなくヒットを狙う、つまり仲間を信じて逆転を狙い続けるという記録よりも「全体の勝利」に徹した結果、チームもシンプルに「翔平の前にランナーを」となって、優勝への後半戦では、下位打線の出塁率が3割を超え、そのタスキを受けての得点圏打率は6割6分7厘という神がかり的な数字となりました。

ビジネス界の偉大な方々も「最も大切なことに集中し、問題に潜む複雑性を排除し、向き合う対象を絞り込む」こと、つまりシンプルに仕事を進めることが成功へのカギと断言しています。

さくら保育も朝子名誉園長が創設して以来、シンプルな「大事に・大事に」を変わず続けてきています。生まれて間もない赤ちゃん達を大事に守り育て、当然のことですが、この大事にの中身を食事や排せつはもちろんのこと、遊びや正しい生活習慣、周囲の人々との関わり方を丁寧かつ細部までこだわり続け

てきました。ではどうして大事にを繰り返すのか、ここでスポーツやビジネスなど「勝ち負け」の世界とは大きく一線を画すことになります。

それは、生きとし生けるものの中で名誉園長が最も大切としていた赤ちゃん達への愛です。無条件の愛でひたすら温かくお世話をし続けるという想いを「大事に・大事に」と連ねることで表しています。

本年も職員とともに一生懸命努めてまいります。

どうぞよろしく願いいたします。

園長 山内 香幸